岡崎ホスピスケアを考える会通信

2015年3月
59号

http://www.okazakihospice.sakura.ne.jp/

事務局：橋詰 0564-53-3100

2015年度年間テーマ　―「いい人生だったね」と言えるように―

―大切なもの―

「医者が患者から奪ってはいけない最も大切なものは、命じゃない希望なんだ。」

「命はその人の身体の持ち物だけど、希望は心の持ち物だろう？人は身体だけで生きているんじゃない、心で生きているんだから。」

短い人生で遺した航一郎の言葉を、少年兵から医師になったンドゥンクに伝える和歌子。

小説「風に立つライオン」の中での話です。映画も今上映中です。小説と一体となった映画に大満足で心が震えました。

施設で余生を送ろうと選ばれ、勉強会でお仲間二人と、そこでの生活ぶりを話してくださった稲葉さんが亡くなられました。

三日間、身体がだるいとおっしゃっただけで、二月に天寿を全うされたそうです。

半年前伺った時、「うどんしか食べられないけれど、通信を隅から隅まで何度も読んでるの。読むの大好きだから。」と励ましてくださいました。

会が発足して一八年を迎えます。ずっと支えてくださる方々に「いい人生だった」と思っていただけるように、通信で、勉強会・ボランティア・総会等を、目に見えるようにお伝えできたら・・と、運営委員一同、身が引き締まる思いでいます。

橋詰清子

交流会

1月19日(月)10:00～12:30
会場　福祉会館　視聴覚室　　参加　23人

次年度計画立案のため、会員の方々の声を聞きたいと交流会を設けました。
2グループに分かれ、今後、どんな勉強会、見学会などを希望するのかを話し合いました。

・施設見学をしたい。
・施設についての情報・見極め方など知りたい。
・リハビリ訓練を受けてみたい。
・お話を聞くだけでなく参加者が体を動かしたり、声を出したり、実地訓練できる勉強会をしたい
・在宅を選んだ時、今どんな風になっているか、注意すること等を知りたい。

など意見がでました。
柴田睦さんが「施設見学の時、施設側の説明に加え、入所されている方の表情を見てきて欲しい」とアドバイスされました。
その後、仕出し弁当をいただきながらの新年会となりました。(柴田貞子)

総　会

3 月 14 日（土）1:30～3:30
会場　福祉会館　303 号室　　参加　33 人

総会議事は、30分程で、活動報告、会計報告、次年度計画、予算案など滞りなく承認されました。
久しぶりにご出席くださった顧問の安江先生のお話。楽しみに参加された方も多かったと思います。
愛知病院退職後、和歌山県那智勝浦の山間地に新天地を求めて移住されて15年、「神の国」を創りあげて、自給自足の満ち足りた生活ぶりを話されました。
人間4種、・悪者　・愚かもの　・お人よし　・卑怯者　の分類は興味深く、ちなみに先生はご自分を卑怯者に入るとおっしゃいました。
言いたいことを言い、やりたいことやり、とことん環境に優しい生き方をされている先生はとても魅力的でした。（柴田貞子）

【感想】

・生き方を改めて考えたいと思います。
・岡崎ホスピスケアを考える会に感謝。安江満悟先生に感謝。
・安江先生の「孤独死ではなく一人で死んだだけ」という考えはすばらしい。
・神の領域に入れば何も怖くないとおっしゃりながら、田舎暮らしを満喫されているご様子が伺えてよかった。その中で少し辛口かと思われた四分類した人のお話も、最後にご自分を卑怯者と落として話されたことで、いつか誰でも神の領域にたどりつけるのではないかと思えるような優しいお話でした。ナナちゃんのように、すべてを生ききり元の場所で、静かな平穏死を迎えるために「幸せの種を蒔きながら今を精一杯生きていたい」と思えました。先生、色々なことを教えてくださいね。
・今日はありがとうございました。久しぶりに出席できうれしかったです。また安江先生のお話は自然に生きて昔のこと上手にお話してくだり、自分も年を重ねて丈夫でピンピンと生きたいです。
・人間を愛し自然を愛し地球を愛し・・・神に与えられた生をそのまま受け入れて生きる。そんな生き方ができたら、本当の幸せが見えてくるのかと思いました。私にはなかなかですが。

・「在宅平穏死」を目指して幸せの種を撒き続けると聞いて、種探しをしなくては・・と思いました。
・安江先生にお会いできることが楽しみで嬉しくて来ました。安江先生の相変わらずの正直な話が聞けてとても嬉しかったです。元気になれます。
・安江先生のファンです。先生みたいに大自然の中に終の住家を求めることはできませんが、我が家でなるべく自然体で逝けるよう日々大切に生きようと思います。
・「ここに居れば、何も心配ない」という場所とは。奔放に生きたニワトリのナナ母さんにとっては、最初の夫ハチと子作りをした巣。先生にとっては星を観て、樹を植え、山の幸を食べ飲む友がいる紀州の山奥。私にとって「何も心配ないここ」はどこだろうか。ここを探すための人生でありたい。
・先生がお元気そうでうれしそうな様子に、私まで楽しかったです。

・安江先生のにわとりのハチとナナ。めん鶏ナナの本能のままの生き方に学びました。人間も自然を受け入れ命にしがみつかず潔く逝きたい。そして覚悟を持って命を生きつくしたいと思いました。先生の一人死 OK の生き方でも、定期的な健診（胃カメラ）で病気を発見された現実。先生の本音のお話をお聞きし、自分の死への思いを家族にもきちんと伝えなければと思いました。

緩和ケア病棟ボランティアの報告

ﾃｨｰｻｰﾋﾞｽ･ｱﾛﾏﾏｯｻｰｼﾞ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日1:30~4:30　緩和ケア病棟ボランティア室
ｱﾛﾏﾏｯｻｰｼﾞ第1,3,4火曜日1:30～3:30　練習第4金曜日11:00

クリスマス会（12 月 19 日）

1 週間前からクリスマスツリーを飾り、窓にもたくさんの飾りつけをしたラウンジに、歩いてみえる方、車椅子やベッドのまま大勢の患者さんとご家族が集まりました。先生のプロ顔負けのマジック、看護師さんのわざと練習不足？と思わせたハンドベルには自然と笑顔が生まれました。先生の奥さまが弾かれたピアノには、患者さん以上にスタッフが数多く聴きにみえたような気がしました。サンタクロースやトナカイにふんした先生と一緒に賑やかなクリスマス会が行われている中で、私たちはいつも通りのおもてなし。クリスマスに合わせて、小さなロールケーキやゼリーのお菓子を添えてコーヒー紅茶などのティーサービスをしました。患者さんとご家族の笑顔とスタッフの笑顔。私たちも一緒にクリスマス会を楽しみました。（柴田由紀子）

アロママッサージ曜日変更のお知らせ

毎週金曜日と毎週火曜日に変更しています。練習日も第 4 金曜日 11:00～12:30 に変更です。
一度覗いてみてください。待っています。

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・第２火曜日 10：00～12：00　地域緩和ケアセンター・各自宅

本宿から電車とバスを乗り継いで休むことなく手縫いの会に参加してくださった阿部さんが、足助の方に引越しされました。手縫い雑巾は、月１回の２時間の活動時間には１人３～４枚しかできませんが、阿部さんは毎回タオル 10 枚（雑巾 20 枚分）を家に持ち帰り、ていねいに仕上げてきて下さいます。日頃黙々と縫い続け、人の役に立つことが嬉しいと活動されていた姿は、私たちボランティアのめざすところです。遠くなりあまり来られないそうですが、たまにはお顔を見せてもらえると嬉しいです。阿部さん、ありがとうございました。

“つどい”の 報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第３木曜日 10：00～12：00 事務局（橋詰宅）

自分はなんと不幸だと思う時は、感謝の気持ちを忘れている時。親、友人、多くの人に支えてもらって今がある。（山崎明美）

「ひとり平穏死」

難波　清子

総会終了後に行われた顧問の安江先生は、四つのテーマについて話された。

① ハチとナナ

鶏のつがいを飼った。雄はハチ、雌はナナと名付けた。放し飼いにしてある。ある日雌のナナが、二股になった木の真ん中の、丸くへこんだ場所に座って動かない。卵を抱いていたのだ。無事に雛がかえり大きくなり、やがて年数がたってくると親たちはヨボヨボになった。こうなると、若い鶏たちにつつかれ、いじめられる。

この夫婦は囲いの中に入れた。

ハチが死んだので外に出そうと扉を開けるとナナがすごい勢いで飛び出していった。若い雄を掴まえて交尾をしている。たった今まで、亡くなった夫の横にいたというのに。子孫を残すための本能か。

やがてナナは、子育てをしていたあの木に座り静かに死んでいた。

② 二十万羽の鶏肉製造工場

鶏のクチバシを切り、餌は選り好みをさせず栄養をまんべんなく食べるようにして経済効率よく育てる。

③ 色川の自給自足　有機農法

イソヒトドリが来て、青虫を食べてくれていた。米にカメムシが付くと精米した時に黒くなり、等級が落ちるため、早朝に無人のヘリで農薬を散布する。虫がいなくなり鳥が来なくなった。

④ 在宅平穏死　ナナのような最期を。

「今新聞などで孤独死とか孤立死とか言われるが、一人で死んでいくことは必ずしも寂しいことではない。」と最後に感想を述べられた人の一言が、私の心にきっちりおさまった。

先生が用意された四つのテーマ。自然と共存できる里山でさえも、人間の経済効率が優先されてしまう現在。先生が何を求め、何を目的に和歌山に行かれたのかは知る由もないが、ナナのように放し飼いで育ち、最期を自由に選択できたこの話は、私に「ひとり・平穏死、いいよ」と、安らぎをもらえた話となった。

あとがき

待ちに待った春、桜の花が満開です。岡崎は今、桜まつりで大賑わい。友人と一緒に、いか焼き、綿菓子、焼きとおもろこしに花見団子、ビールに熱カンときたらお腹も満足。心も満足、ホッカホカ！来年もまたみんなで元気にこの桜が見られますように。

（永谷美雪）